

JR東海労ニュース

リビア空爆反対！

3月19日、英仏米などを中心とする多国籍軍が、リビアに対する空爆を開始し、民間人にも犠牲が出ている。日本政府は、大震災のどさくさ紛れに「カダフィ政権の暴力からリビア国民を守る措置だ」と空爆を支持する態度を発表した。

しかしこの事態に対して、否定的反応が少なくない。ロシアは、「軍事力行使の停止」を呼びかける声明を出した。中国は「武力衝突による市民の死傷が回避される事を希望する」と否定的な考えを示した。アフリカ連合も「深刻な人道問題を招く」として攻撃の即時停止を要求した。一方、国連の事務総長は、「国際社会が、市民を保護する責任を実践している」と位置づけ、不当な内政干渉にあたらぬとして、リビアへの軍事介入を容認する考えを示している。

今次対リビア空爆は、国連安保理の武力行使容認決議に基づいている。しかし国際連合憲章は、第1条（目的）では「（前略）国際的の紛争又は事態の調整又は解決を平和的手段によって且つ正義及び国際法の原則に従って実現すること」、第2条（原則）では「すべての加盟国は、その国際紛争を平和的手段によって国際の平和及び安全並びに正義を危うくしないように解決しなければならない」と掲げている。明らかにリビアへの軍事攻撃は国連憲章に違反している。私たちは、いかなる理由があろうと多国籍軍によるリビア・カダフィ政権への軍事攻撃に反対である。「国際紛争」は平和的な手段によって解決されるべきである。



軍事力行使はさらなる紛争を招くだけだ！